

序

福岡大学・城南区地域連携事業 「福岡市城南区の歴史を歩く」

もも さき ゆう すけ

桃崎祐輔（福岡大学人文学部 考古学）

序 福岡大学・城南区地域連携事業「福岡市城南区の歴史を歩く」

桃崎祐輔（福岡大学人文学部 考古学）

1 はじめに

現在、福岡大学人文学部と城南区との地域連携事業、「城南区の歴史を歩く」プロジェクトを進めています。福岡大学は城南区の油山麓に位置し、周辺には田畑を潤してきた溜池が点在し、独特の景観をみせています。そこには油山山林の緑豊かな自然環境と、都市化の中でも守り伝えられてきた歴史遺産があります。

しかし戦前からの福豊炭硯採掘や、戦後の都市化の進展は、土地の景観を大きく変えていきました。特に都市高速道路の建設は、眺望を大きく変貌させ、油山を大きく遮る高架によって、我々の心象の中の原風景さえ、失われようとしています。またその過程で発掘調査された遺跡から出土した遺構や遺物は、まだ十分に活用されていないのが実態です。

そこで城南区内の遺跡や史跡から新しい歴史像を描くとともに、区民参加による調査を実施して歴史遺産（遺跡・史跡・景観・生活・方言・伝承等々）の掘り起こしをはかるプロジェクトとして、本講座を企画しました。

住み慣れた城南区の歴史を再発見し、身近に感じてもらうとともに、調査成果をもとに、具体的な遺跡・史跡案内板の設置やウォーキングコースの作成を行い、歴史を活かした町づくりと、健康増進を図ろうという欲張りなプロジェクトです。

2 連携事業に至る経緯

1) 「城南区の歴史を歩く」

平成5～15年度、福岡大学人文学部の武末純一先生は、福岡市西区の「一区一美事業」で史跡整備委員長として、史跡案内板・道標・マップ・冊子『西区は歴史の博物館』の作成、西区歴史講座を通じて「西区よかこ案内人」を養成された実績があります。

2010年1月30日には、福岡大学創立75周年事業の一環で開催された『地域連携協定調印式および福岡大学出身首長によるシンポジウム』に出席され、歴史学・考古学が連携可能な3つのKのうち、これまで「観光」と「環境」しかなく、「健康」（地域医療）という視点が欠けていたことに気づかれ、「遺跡を整備しその意義を広報しルートを作成することで、地域住民が1日ないし半日歩き回り、それによって地域自治体が負担する医療費を軽減できる可能性」にもとづく、史跡整備と地域医療の結合の可能性を模索され、「地域を

歩く」と題して趣意書を作られました。現在、福岡県は高額医療費が全国1位であり、年々厳しくなる財政事情のなかで、医療費の軽減は焦眉の課題となっていますが、不可抗力の難病と違い、人々の運動不足や不摂生が引き起こす生活習慣病の蔓延は、生活改善で予防すべきです。それを苦行でなく、楽しくやるのが肝心ですが、そこで知的好奇心を満たし、地域への理解や愛着を深め、体力も増進できる、遺跡歩きが有効と考えたわけです。

2010年、福岡大学では地域連携の具体的な事業計画を模索していた最中で、本プロジェクトは、城南区との打ち合わせを重ねるなかで、実現に向けて動き出しました。

2) 2011年度の経過

2011年6月～7月 城南区歴史探訪講座

2011年度上半期には、城南区と協議の上、「城南区歴史探訪講座」として考古学・文化人類学の連続講座6回を実施し、毎回城南区住民約60名（登録約100名）が聴講されました。

6月4日 第1回「弥生時代の城南区～大規模な環濠集落と前漢鏡を出土した甕棺墓～」(桃崎)

6月11日 第2回「古墳時代の城南区～油山麓の古墳群と渡来人の活動～」(桃崎)

6月18日 第3回「北部九州の民俗宗教についてⅠ」(文化学科 白川琢磨教授)

6月25日 第4回「北部九州の民俗宗教についてⅡ」(文化学科 白川琢磨教授)

7月2日 第5回「油山天福寺と中国商人～博多綱首と瓦・薩摩塔・梵鐘～」(桃崎)

7月9日 第6回「大内氏の進出から黒田藩の支配へ～中世名主屋敷の廃絶と強制移住～」

※この日は講座修了後田島神社の神楽を見学。

幸い本講座は参加した城南区のかたがたから好評を博し、確かな手応えを観じました。

この講座を通じて、城南区内には多くの重要な遺跡があるにもかかわらず、都市化で壊されたり、市街地の地下にあってイメージしにくいこと、それらの遺跡は複合して景観をつくっていたこと、専門家にも、あまり知られていない遺跡や文化財が多く、研究に反映されていないこと、遺跡や史跡を今日の視点や水準で正しく再評価した上で、重要なものは跡地や範囲地に立札を立て、周知することが必要だとわかりました。私桃崎も城南区の歴史を再発見し、眼からウロコが落ちる思いで、講座を重ねてきました。ただ月に2回というペースは、講座を行う私も、初めての知識をつめこまれた受講者の皆さんもなかなか辛いものがあり、

また「城南区の歴史を歩く」と題したもの、田島神社神楽を見学したほかは、「歩く」ことが十分に果たせなかったことが、課題として残りました。

城南区・福岡大学をめぐる歴史的環境

福岡大学の東方を流れる樋井川は、油山を源流として北流し、現在今川橋を経てヤフードーム付近から博多湾に注いでいます。しかし17世紀前半、江戸時代の福岡城築城と周辺整備に際して流路が改変される以前は、現在の鳥飼・別府・草香江付近から東に流れ、現在の大濠公園の前身である古鳥飼湾の入江に注いでいました。すると城南区の歴史を考える上では、油山に発して草香江に注ぐ樋井川を軸に、流域に点在する遺跡群を、葡萄の房のように結びつけていく手法が有効です。さらに歴史地理学的成果に基づく古海岸線や河川の成果と、最新の発掘調査成果をあわせれば、新たな歴史像が見えてくるはずです。

また油山は、那珂川町域や早良郡域にまたがり、南方に派生する荒平山は、肥前＝佐賀県にまたがる背振山系と尾根続きでもあり、その位相を踏まえた、周辺地域への目配りも必要となってきます。

2011年8月～9月 城南区内遺跡調査成果報告書作成にかかる整理作業

樋井川河床には、縄文時代から近現代までの遺物が散布しています。古いものでは縄文後期の土器片、新しいものでは戦前の歩兵24連隊にかかる防衛食器まで様々です。

本事業の一環として樋井川河床で採集した土器や陶磁器片などの考古資料を調査しました。整理作業には夏期休業期間中の考古学専攻の学生3名が従事しました。

最近、田島一別府・鳥飼間で樋井川の大規模な浚渫工事が行なわれましたが、河床に散布している土器片や陶磁器片に全く配慮がなされなかったのは残念です。歴史・民俗資料は刻々と失われています。特に専門的な記録が残りにくい日々の暮らしや景観の記録を残すことは、今を生き、子孫に未来を託す我々の使命でもあるといえます。

2011年10月2日 七隈史学会第13回大会考古学部会 城南区連携事業特集

七隈史学会第13回大会では城南区連携事業に関連する企画を行ないました。これらの成果は、一部が2011年度末刊行の『七隈史学』第14号に収録され、2014年度刊行予定の報告書にも付編論文として収録する予定です。

桃崎祐輔（福岡大学）

「趣旨説明：福岡大学・城南区地域連携事業－福岡市城南区の歴史を歩く」

磯 望（西南大学教授）

「博多湾岸の考古・歴史時代の海岸地形変化」

宮井善朗（福岡市教育委員会）

「城南区の遺跡」

遠藤 茜（太宰府市教育委員会）

「福岡平野の弥生時代の集落動態」

山口 亨（佐賀市教育委員会）

「佐嘉と早良を結ぶ道」

大重優花（福岡大学研究支援者）

「山口県防府天満宮所蔵の油山天福寺梵鐘」

濱口真衣（福岡大学大学院）

「梅林古墳と梅林遺跡の再検討－首塚古墳の報告を踏まえて－」

朝岡俊也（福岡大学学部4年）

「水利遺構からみた福岡平野～福岡平野検出の水溜遺構の集成とその整理」

阿南翔悟（福岡大学学部4年）

「福岡出土の鋸について」

磯望先生には、考古地理学的議論の前提となる博多湾海岸線の変遷について、中央区浜の町貝塚など、最新調査データを踏まえた研究の到達点と課題をお話いただきました。

宮井善朗氏には、「城南区の遺跡」を概観していただきました。城南区内ははやく都市化が進み、他の地区のように保存・整備された遺跡が少ないため、数多くの遺跡があることはあまり実感できませんが、学史的に重要な弥生時代が多く、今回丸尾台遺跡の前漢鏡を出土した甕棺墓群が、当時の写真の分析から、弥生時代の墳丘墓であった可能性が高く、小なりといえども、佐賀県吉野ヶ里遺跡や福岡市西区吉武樋渡墳丘墓のような集団墓であったことを周知されたのは、重要な成果でした。

また古墳時代には、油山山麓に渡来系色の濃い梅林遺跡が現れ、福岡大学周辺を含む油山山麓には、5世紀から7世紀にかけて、古墳群が展開しています。また古代末から中世には、西油山に天福寺が営まれ、多数の経塚が造営され、何百もの坊跡が営まれたとされていますが、これら遺跡全体を俯瞰していただきました。

遠藤茜氏は、修士論文で取り組まれた早良平野の有田遺跡や、福岡平野の須玖遺跡、那珂比恵遺跡のような、弥生時代の拠点集落の研究成果をもとに、福岡平野周辺の弥生時代集落に関する研究史を整理していただき、成果と課題を浮き彫りにしていただきました。現在の研究では十分議論の俎上に載せられていない城南区の樋井川A遺跡、長尾遺跡のような弥生時代の拠点遺跡の位置付

けにつながる、見通しを示していただきました。

山口亨氏は、歴史的・地理的に関係の深い福岡県筑前の早良郡域と、佐賀県肥前国の神埼郡域の関係について、現代の国道 263 号線でもある三瀬峠ルートを古代官道や古道の時代まで遡り、旧石器・縄文時代～弥生時代、古墳時代～奈良時代、鎌倉時代～室町時代の各段階にわけてお話いただきました。佐賀県側では、三瀬峠周辺から古湯温泉周辺での発掘調査が進展しており、その成果についても盛り込んでいただきました。

大重優花さんは、室町時代に油山天福寺から大内氏によって山口県防府天満宮へ持ち去られた文応二年（1261）銘梵鐘の検討しました。この梵鐘は、博多綱首（中国商人）とみられる「鄭三綱真之」の供養のため、息子の僧侶禅念が寄進した、日中交渉を物語る重要資料ですが、銘文の解釈が先行し、梵鐘や工人の様式的・技術的検討は不十分でした。今回、精密な実測図や観察結果が示されたことは、研究深化への確かな第一歩といえます。

昼休みには 3 本のポスターセッションを行いました。まず濱口真衣さんは、渡来系の大壁建物などが検出されて注目されている梅林遺跡と、これを取りまく 5 世紀後半の古墳の関係を軸に、渡来色の濃い油山山麓の古墳時代の様相を検討していただきました。

朝岡俊也さんは、弥生時代の開始期から中世後半まで、福岡平野の遺跡の水溜遺構を通時的に整理し、形状や機能から分類し、人間の水利活動を読み解こうと試みました。

阿南翔悟さんは、福岡県内の古墳・遺跡から出土した 28 例の鋸について、出現時期や変遷、分布地域の偏りから古代の生産活動や集団の特質を明らかにしようとする試みで、古代の生産工具を研究する上での視覚と方法が示されました。

今回の試みは、考古学・歴史学の研究成果を、地域の歴史の再発見というかたちで社会還元していくことを目指しました。城南区歴史探訪講座の受講者の方々も多数お運びいただきました。大学と地域住民が一体となって、愛着ある地域の歴史を描いていくことが今後の課題です。上記の当日発表のうち、宮井善朗さんと山口亨さんの発表分につきまして、原稿をいただき『七隈史学』第 14 号に収録しました。宜しくご覧いただきたく存じます。

2011 年 9 月 17 日 城南区歴史探訪講座 グループ活動ミーティング

※本事業予算で増刷した「西油山天福寺」「薩摩塔」に関する論文抜刷を配布しました。

2011 年 11 月 1 日 城南区歴史探訪講座 福岡大学拓本実習

※福岡大学東門周辺で、溝口梅太郎先生の銅像プレートや、ノーベル賞受賞者記念植樹の石碑で拓本実習を行ないました。受講者の手際や上達は良好で、楽しく勉強できたと好評を博しました。実習以来、受講者のかたがたのうちには、区内の石碑の拓本に挑戦されるかたも出てきました。

2011 年 11 月 9 日 福岡大学地域連携事業報告会

※他の連携事業とあわせ城南区の連携事業の成果を報告。

2011 年 11 月 22 日 城南区歴史探訪講座 阿蘇神社見学

講座参加者の要望にこたえ、片江阿蘇神社を見学しました。桃崎より神松寺遺跡・片江 B 遺跡・蒙古襲来阿蘇氏元寇恩賞地などの地元の歴史・考古資料について概説したあと境内の石造物の拓本とりをおこないました。

2011 年 11 月 25 日 田島地区歴史探訪講座

田島地区の皆さんにも城南区連携事業に関連して、田島地区の遺跡と歴史に焦点を絞って歴史講座を行いました。概ね好評を博しました。

2012 年 2 月 17 日・18 日・19 日 福岡市埋蔵文化財センター 資料調査

※福岡市教育委員会刊行の発掘調査報告書にもとづき、福岡大学考古学研究その既報告資料を資料調査。その成果は 2013 年度刊行の学術調査報告書に収録の予定。

2012 年 3 月 16 日 長尾地区歴史探訪講座

長尾神社講座室で郷土史家礪山嘉郎氏と桃崎が長尾地区の歴史を中心に歴史講座を行いました。礪山氏は、安徳天皇伝承、桃崎は樋井川 A 遺跡、宝台遺跡、丸尾台遺跡などの解説を中心に地域密着の内容となりました。講演後には神社収蔵庫の民具を見学しました。

2012 年 4 月 27 日 田島地区打ち合わせ・福大城南区連携事業説明

田島地区の区長以下の方々に連携事業を説明し、田島地区での歴史講座を企画しました。

2012 年 5 月 15 日 城南区長谷氏・岩戸係長らと打ち合わせ

2012 年 6 月 1 日 西日本新聞とウォーキングコース会議

西日本新聞社が大宰府で行っている 1000 人規模のウォーキングコースを城南区の史跡コースでできないかという打診があり、福岡大学地域ネットワーク推進室で会議を行ないましたが、現状の道路事情や交通安全の確保に無理があるため残念ながら断念しました。

2012 年 6 月 22 日 田島地区歴史探訪講座・城南区歴史探訪講座

田島公民館で約 50 名を対象に田島地区の遺跡

からみた歴史を講演しました。地元の関心の高い田島A・B遺跡、京ノ隈古墳、京ノ隈経塚、友泉亭などを取り上げました。

午後より城南市民センターで城南区歴史探訪講座の年間スケジュールを説明し、下半期に受講者が原稿を執筆し、文集を刊行することを通知し、執筆要綱を配布しました。

2012年7月17日（火） 地域連携事業報告・計画

3) 2012年6月～7月 2012年度の城南区歴史探訪講座

昨年に引き続き、「城南区歴史探訪講座」として考古学・文化人類学の連続講座6回を実施しました。昨年の講演内容をベースに、研究進展を加味した内容としましたが、十分な新機軸を打ち出せなかったため、受講者は一部の熱心なリピーターだけになりました。

2012年7月28日 「弥生時代の城南区～農耕の開始から階級社会の成立まで～」

2012年8月25日 「古墳時代前期の城南区～京ノ隈古墳の出現と山陰地方」

2012年 9月1日 「古墳時代中期・後期の城南区～油山山麓の古墳群と渡来人～」

2012年10月6日 「油山天福寺と中国商人」

2012年10月27日 「大内氏の進出から黒田藩の支配へ」

2012年10月2日 七隈史学会第14回大会 考古学部会 城南区連携事業特集

七隈史学会第14回大会でも昨年に引き続き城南区連携事業に関連する企画を行ないました。これらの成果は、一部が2012年度末刊行の『七隈史学』第15号に収録され、2014年度刊行予定の報告書にも付編論文として収録する予定です。

森本幹彦（福岡市経済観光文化局）

「樋井川流域周辺の弥生時代遺跡」

朝岡俊也（福岡大学大学院1年）

「福岡平野周辺にみる開始期の灌漑水利」

阿南翔悟（福岡大学大学院1年）

「九州出土U字形刃先の検討—法量変化とその意義を中心として—」

森本幹彦氏には、樋井川流域を中心とした弥生時代遺跡についてお話いただき、城南区内には大規模な平野がないため、丘陵・台地上に集落が点在し、これと複数の集団にまたがる共同墓地が複合して遺跡群をなしている状況を景観的に捉え、南北に長く伸びる飯倉遺跡群を筆頭に、カルメル修道院・神松寺遺跡群、田島遺跡群、長尾・宝台遺跡群など、4つから5つ程度の集団からなるこ

と、弥生後期にかけて、飯倉遺跡群やカルメル修道院遺跡など、地域的な自立性を保ちつつも、奴国など近隣大国の強い影響下に入ると考えられることを指摘しました。そして古墳時代に入ると、西新町遺跡で多量の朝鮮半島系土器とカマド付堅穴建物が集中し、福岡平野と糸島平野の中間に位置する立地であり、新しい対外交渉拠点の成立には複数勢力間の政治バランスが絡んでいると結んでいます。

朝岡俊也さんは、福岡平野の水田開発の開始期にあたる弥生時代早期～前期後半の灌漑水利では、灌漑システムに多様性が見られるのが、中期以降には水田の高地への進出に対応して井関灌漑への集約化が進み、灌漑システムの多様性が失われていくことを明らかにし、環境や生産規模に即した灌漑システムの選択がおこなわれる開始期と、集団や水田の拡大に伴い、河川に設けた井関からの基幹水路による取水という灌漑システムの大規模化という移行は、単純な技術の伝播や進歩・発展だけでなく、弥生前期末の海進による沿岸低地の水没と、水害を受けにくい高地への集団移動など、様々な可能性を考えます。

阿南翔悟さんは、九州の古墳・遺跡から出土したU字鋤先の最新の集成結果をもとに、資料母数の統計的な裏付けが十分でないまま叙述されてきた従来の変遷観やその歴史的解釈について批判的に検討し、U字形刃先の出現時期や変遷による画期の設定、分布地域の偏りから古代の生産活動や集団の特質を明らかにしようします。特にU字形刃先が集中する油山山麓では、池溝開発や手工業生産との関係が示されました。

この年もまた、城南区歴史探訪講座の受講者も多数お運びいただき、七隈史学会がめざしてきた市民に開かれた学会を実現する上で、大きな成果をあげることができました。

上記の当日発表のうち、森本幹彦さんと朝岡俊也さんの発表分につきまして、原稿をいただき『七隈史学』第15号に収録しました。機会があればご覧いただきたく存じます。

